

## 【ラグビー】シーズン到来 オーストラリア合宿の成果に期待



今年の専大ラグビー部の夏合宿は、オーストラリア・シドニー（7月30日～8月17日）に始まり、長野県菅平（8月20日～28日）、北海道留辺蕊町（9月11日～16日）と3カ所にわたって行われた。

チーム全体が一丸となって、オフENSEの形を徹底するのが狙い。シドニーでは、地元チームとの練習試合を経験し、オフENSE、ディフェンスそれぞれの弱点を見つけ、

修正した。

チームは攻めの形が決まってきたため、今後はそれを生かして組織的に動けるよう理解を深めていく。

北海道では、レベルの高い社会人チームと対戦し、そこから学んだことや、固いディフェンスでリーグ戦に挑む。

「チームとして良い形になってきた。ディフェンスが固く、去年と比べて良くなったと思う。だが、精神的に弱く、コミュニケーションがまだ足りない」とチームの状態を語る山口泰生主将（商4・東京高）。今期の注目選手として、LO（ロック）の須田康夫（商1・仙台育英学園高）とWTB（ウイング）の西真（商1・大阪工大高）を挙げた。「自分たちの力を100%出し切れれば良い成績が残せると思う。目標はリーグ戦3位以内で大学選手権の出場権を獲得すること」と同主将は言う。

関東大学リーグ戦グループの専大の初戦は9月29日の対関東学院大戦（別表参照）。今季はどんな展開が待っているのか、目が離せない。

（小平百子・文1）

〔9月15日/ニュース専修12面〕

## 【野球】開幕戦勝ち点奪えず 東都大学野球リーグ戦



東都大学野球秋季リーグ戦が9月7日に開幕した。専大は東洋大との開幕戦を1勝2敗で落とし、1部復帰直後のカードで勝ち点を挙げられず苦しいスタート。優勝候補の亜大も青学大に連敗し、今季は波乱含みの展開が予想される。

【1回戦】3点を先行された2回裏、阿部善隆(商4・専大北上高)の2塁打などで2点を返すが、2-6で敗戦。

【2回戦】先発の江草仁貴(経済4・盈進高)が7回まで被安打4、奪三振7と無失点に抑える。攻めては5回裏に1点を先制すると、勢いに乗った専大打線は6回裏、一気に5点を追加。8回から登板した小西正則(経営4・北嵯峨高)もきっちり抑え、7-0で勝利。

【3回戦】加納大祐(商4・鎌倉学園高)が好投するも、打線が振るわず、0-5で敗れた。

佐竹道隆主将(経営4・浜松工高)は「初戦でも緊張せず、強気で試合に臨んだが、相手のペースを崩せなかった。気持ちを切り替えて頑張りたい」と語った。

(高橋奈津子・文2)

[9月15日/ニュース専修12面]

## 【アメフト】 まずプレーオフ出場が目標 総合力・組織プレーに自信



9月15日から関東大学アメリカンフットボール1部リーグ戦が開幕する。Bブロックに属している専大グリーンマシーンは、16日に行われる筑波大戦が初戦。

昨季は、Bブロックで4勝2敗のプレーオフ出場を果たしたが、法政大に敗れてしまった。その雪辱を果たすためにも、今年もプレーオフ出場がリーグ戦の目標となる。

毎年恒例の山中湖合宿では、春のオープン戦の反省を行い、心技体の成長と選手の自己チェックを中心とした練習に励んだ。「合宿の出来がリーグ戦に直結する。本番で合宿の成果が発揮できれば、必ず良い結果が出る」と、平野恭雄監督は力強く語った。しかし、昨年はケガに泣かされた面もある。選手・スタッフ共に課題は、コンディショニングを重視し、負傷者を最小限におさえることである。今年の専大は個人技能よりも、総合力・組織力に秀でており、期待が持てる。リーグ戦に向け、意気込みも十分。夏に培った実力のすべてを出し切ることが出来れば、3年連続プレーオフ出場はもちろん、関東制覇も夢ではない。

(稲田 礼子・法1)

〔9月15日/ニュース専修12面〕

### 【レスリング】田中 120kg級で優勝

全日本学生選手権が8月28日から31日まで、大阪府堺市立金岡公園体育館で行われ、男子フリーで120kg級の田中章仁(経済2・三井高)が初優勝、84kg級の平澤光秀(文3・霞ヶ浦高)が3位に入賞。

また、男子グレコでは、84kg級の吉本正史(経営4・玉名工業高)、74kg級の中本健太郎(法4・六ツ川高)がそれぞれ2位と好成績を残した。

田中は、初戦から圧倒的な実力で勝ち上がっていき、決勝戦でも徳山大学の選手を大差で倒し、見事大会発制覇を成し遂げた。

9月29日から韓国・釜山市で行われるアジア競技大会に出場する田中。日本で圧倒的な強さを誇る彼が、海外でもどんな勇姿を見せるのか、活躍に期待したい。

(高橋奈津子・文2)

[9月15日/ニュース専修12面]